

動脈硬化

Q5 71歳、男性です。糖尿病が原因で透析になり、5年経ちました。最近足が冷たく、歩くとすぐに疲れて痛くなります。何が原因でしょうか？

A5 長期透析患者さん、高齢患者さん、糖尿病患者さんでは、動脈硬化が著しく進行し、足の動脈が狭くなり閉塞^{へいそく}してきます。その結果、足が冷たく感じ、少し歩いただけで足が疲れて、痛みを感じるようになります。ちょっと休むとまた歩けるようになることから、間欠性跛行^{はここう}といえます。

多くは足の血流低下が原因で、冷感、間欠性跛行^{はここう}、しびれ、疼痛のほか、進行すると足の皮膚の色が蒼白や紫色になり、その後潰瘍ができ、放置すると足が壊死^{えし}してしまうケースもあります。このような病気の状態^{へいそく}を閉塞性動脈硬化症(ASO)、最近では末梢動脈疾患(PAD)ともいいます。

透析患者さんの動脈硬化は、健常人に比べ10～20年程度進行しているといわれており、通常の10倍もこの病気が発症します。高血圧症、糖尿病、高脂血症が悪化させる因子であることに加え、透析による急激な血管の収縮や拡張、長期透析による血管壁への石灰沈着が病態を進行させます。

自覚症状で病気が疑われる時は、下肢の皮膚温や脈(足背動脈^{そくはい}*1)が触れるかをチェッ

クします。

スクリーニング検査^{*2}としてはABI(ankle brachial blood pressure index)が有用です。両足関節と上腕の血圧を同時に測定し、その比を算出する検査です。通常、足関節の血圧は腕の血圧に比べ10%程度高いので、足の血圧を上腕の血圧で割り算すると1以上になります。足の血流が悪くなると、足関節の血圧は著しく低下し、ABIは1以下となりASO、PADが疑われます。

早期診断・治療で症状を改善させることも可能です。最近では、下肢の狭^{きょうさく}窄動脈にバルーンカテーテルを入れて拡張し、ステント^{*3}という細い金属ネットを置いて血管を広げる治療も行われており、良好な成績が期待できます。

病状が進行し足が壊死^{えし}を起こした場合には、余儀なく下肢の切断になるため、早期の発見と進行を予防するための管理、治療が大切です。

(菅野靖司、前波輝彦／

あさお会 あさおクリニック・医師)

*1 足背動脈：足の甲(靴のひもを結ぶあたり)にある動脈。

*2 スクリーニング検査：迅速に実施可能な検査で、無自覚の疾病または障害を暫定的に識別すること。

*3 ステント：金属製のネット状の管で、狭窄した血管を広げたあとに置いて、血流を確保するもの。